土庄町官民連携まちなか再生推進事業

第1回 土庄町『迷路のまちチャレンジラボ』公開プレゼン審査・開催報告

日程:R8.9.27(日)

於:カルチャーホール王子

☆開催趣旨

本公開プレゼン審査は、単に優劣を競い出店者を決定するコンテストではなく、「目的地をつくることで、まちを面白くしたい」という応募者の熱意やアイデアを地域全体で行け止め、共に育むための『共創の場』です。

歩いて楽しいまちなかづくり、さらには戦略的なまちづくりの一環として、提案された企画の「目的地化」「回遊性」「滞留性」といった空間価値向上への貢献を見極めると同時に、世代や立場を超えた参加者同士、ならびに地域住民・審査員との新しい繋がりや持続的な連携を創出することを目的とします。

募集テーマや重視する基準に沿った企画に対して、

- 支援金上限 10万円
- 採択件数最大 5件

を募集



当日の流れ

13:00 開場
13:30 開会
・開会あいさつ:土庄町建設課
・審査員紹介 :香川大学経済学部 西成教授(審査委員長)
土庄青年団睦 団長 笠井さん
土庄町商工会 青年部長 合田さん
13:40 公開プレゼン審査の進め方説明
14:00 公開プレゼン審査開始(**応募者 7組**)
・発表 5分程度
・質疑 5分程度
15:15 プレゼン終了
審査員による審議(別室にて)
15:45 審査(採択)結果発表
16:00 閉会



プロジェクト名	プロジェクト内容
エンジェルロードのランチ難民解消プロジェクト	・「二十四の瞳」や「エンジェルロード」の新旧の写真展、及び「かきまぜ」や「タコ飯」の弁当販売。 ・回遊性を見据えたボランティアガイド
みちばたのすきま	・子どもを入口とした、大人まで誰でも自由に立ち寄って過ごせるフリースペースを提案。 ・買物体験や縁日、ボードゲーム、自分の好きな思い出の写真などを印刷展示
ゆうゆうスペース （YuYu Space）	・地域の人と観光客が、アート、物語、音楽、言葉を通して交流できる「小さく気軽なスペース」を提案。 ・紙芝居と音楽、オラクルカード、日本のアート・手仕事、身体・アート・リラクゼーション、及びこれらに関する小さなワークショップ
オリーブしまちゃんと迷路のまち探検（仮称）	・オリーブしまちゃんと一緒に「まちを楽しみながら探検」＆「迷うことを楽しむ」まち歩き。 ・探検手帳のヒントを元に土渕海峡からエンジェルロードを目指して探検。
未活用資源×共感ビジネス！子供たちが主役になる迷路のまち回遊拠点	・小豆島の石や竹、シーグラス、廃棄農産物などの未活用資源を活用したワークショップや商品販売。 ・小中学生らがフリースクール、オリーブ学園のスタッフや地元の事業者などと一緒になって商品開発及び接客を行う。
島の食材を使用したクラフトドリンク、モクテル（ノンアルコールカクテル）、軽食の提供	・小豆島の耕作放棄地やB品など、市場には出荷されない農産物を利用したフードやドリンクの提供及び物販。 ・上記とともにゆっくりとしたひと時を過ごせる空間づくり。
紙芝居とききそうめんの寄り道処 ～紙芝居で知る、そうめんで味わう、ガイドブックにない小豆島～	・昔ながらの自転車街頭紙芝居を入口に、小豆島の知られざる物語や場所を知ってもらい、小豆島を代表する食文化「そうめん」を食べ比べる「ききそうめん」と町歩きへつなげる。

評価項目	審査基準の評価視点	重視する募集テーマの評価視点
① 目的地化・回遊性 （わざわざ行く・めぐる）	・「わざわざ行きたくなる」魅力や独自のアイデアがあるか。 ・土庄港～迷路のまち～エンジェルロード間のまち歩きにつながる仕掛けがあるか。	・空き家・空き地、空き店舗の活用につながるか。
② 滞留化 （のんびり長居）	・お客さんがゆっくり過ごせる居心地の良い空間づくりの工夫があるか。 ・地域住民や来訪者と会話や笑顔が生まれる工夫（仕掛け）があるか。	・子どもの居場所、高齢者交流、住民と観光客の交流など今までにない人を呼び込めるか。
③ チャレンジ性 （挑戦・面白い）	・応募者ならではの、新しい視点や熱意が感じられるか。 ・これまでにない試みや、面白い挑戦が含まれているか。	・迷路のまちの魅力向上や、地域のにぎわいにつながる可能性があるか。 ・周辺店舗、住民、他のプレイヤーとの関係づくりや波及が期待できるか
④ 継続可能性 （未来へのつながり）	・短期間の実験だけで終わらず、今後も迷路のまちに関わり続けたい意欲があるか。 ・次回以降の出店や活動展開につながる可能性があるか。	・他の事業者、住民、学生等との連携が期待できるか。 ・応募者自身が今後もまちづくりの担い手となる可能性があるか。 ・この実験をきっかけに、新たな活動や連携が生まれそうか。
⑤ 実現可能性 （無理なくやりきる）	・10万円の使い道（公費投資）が空間づくりに適切に使われるか。 ・当日の運営体制、安全面、準備スケジュールに無理がないか。	・投入する費用に対して、得られる効果が妥当か ・実践的な情報発信方法となっているか。

上記項目を参考に評価

発表要旨

1. 採石奉行屋敷跡地と社会実験スペースを活用して、土庄町の食材を使った弁当などを提供しランチ難民を救いたい。
2. 社会実験スペースでは「二十四の瞳」「エンジェルロード」の新旧の写真を展示したい。
3. 小豆島に行く「理由」と「目的」をつくることで、来訪者と地域の交流を増やしたい。
4. フリースペースとして開放し、こども中心のイベントを開催するとともに、お気に入りの写真を貼ってコメントを書くことで、大人や地元の人が立ち寄るきっかけづくり。
5. 街頭紙芝居と「ききそうめん」を組合わせることで、「目的地化」「滞留化」「回遊化」が達成できるか検証する。
6. 地域内消費行動につながる社会実験としたい。
7. 歩くことでまちを知ってもらい、好きになってもらう。そして、再訪してもらえる仕掛けを実験したい。
8. 実店舗を持つことを目標に、地元客をターゲットとしたのんびり過ごせる飲食店をやってみたい。
9. SNSでの発信を通じてファンをつくり、口コミを広めることで「迷路のまち」自体を話題化・目的地化していく。
10. 心地よい空間演出により、体験の提供や多世代交流が生まれるきっかけをつくる。








結果



審査委員長の西成先生より、「どの企画も不採択とする理由がない」とのご意見を受け、審査員全員一致で**「すべての企画を採択する」**という結果になりました。

予算の範囲内で7組の応募者の皆さんの企画を実現するために、「共同」「共有」「共創」に取り組んでいくこととなり、事務局も調整役として関わらせていただくこととなりました。

事務局の狙いでもある「最初のまちづくり仲間」が生まれたことに感謝しつつ、ここからさらに多面的に広げていきたいと考えており、ウォーカブル事業の推進の大きな一歩となったと思います。

応募者の方々から「有償」「稼ぐ」というワードが出てきたことも、自立自走のまちづくりへの可能性を感じるものでした。